



緑の地球新聞

第145号

2019年7月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <http://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ￥150

動植物100万種が絶滅危機

国連主催会合で科学者団体が報告

「この5000年間で、少なくとも地球上の680種の脊椎動物が人類の活動によって絶滅し、現在も100万種の動植物が絶滅の危機に瀕している。」人類が陸海空で自然環境と生物多様性に壊滅的な打撃を与えていることを警告する報告書が、2019年5月6日に国連環境計画(UNEP)主催の政府間会合において公表されました。

○研究結果が集大成された報告書

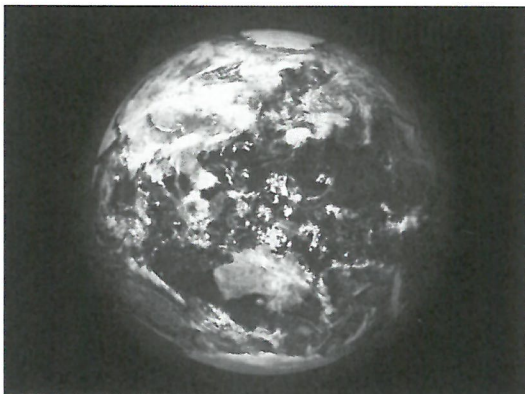
公表したのは「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)」です。IPBESは2012年に設立され、日本を含む132か国の政府が参加しています。

今般の報告書の基となった研究は、50か国から科学者が145人参加し、他にも310人が協力し、過去50年間に生物多様性に起こった変化を評価。約1万5,000の学術及び政府を情報源とするデータを3年間かけて分析してきた結果を集大成したものです。報告書は1,800ページにも達します。

本稿では、報告書に記載されている要点のごく一部を紹介します。

【森林破壊の現状】

1970年以降、世界人口は倍増し、世界経済の規模は4倍に成長し、国際貿易の量は10倍に増えました。この膨れ上がる人類に十分な食糧と衣類とエネルギーを与えるため、各地で森林が驚くほどのペースで切り倒されてきました。特に熱帯地域の森林が、とつともないペースで減少しています。1980年から2000年の間に失われた熱帯林の面積は1億ヘクタールに達します。南米での牧畜と、東南アジアでのパーム油生産がその主因であると、報告書は指摘しています。



かけがえのない地球。多くの動植物が絶滅の危機を迎える中で、人類の未来はあるのか

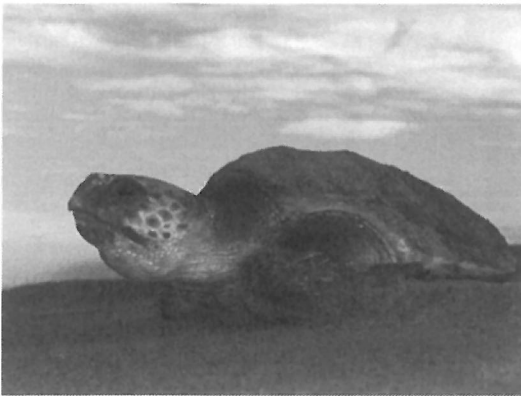
【動植物の危機】

各国で都市部は急速に拡大し、都市面積は1992年から倍増しています。前述した森林破壊と併せて、こうした人類の活動によって、かつてないほど大量の生物が死滅しており、動植物の25%の種が絶滅の危機に晒されています。過去100年間で陸上の土地固有種の数が20%減少し、両生類の40%、サンゴの33%、海洋ほ乳類の3分の1が完全な絶滅に直面しています。また、すべての家畜化されたほ乳類6,190種のうち約9%に相当する559種が絶滅し、さらに1,000種以上が絶滅の脅威に晒されていることが具体的な数値として示されています。昆虫への地球規模の影響は分かっていますが、地域によって昆虫が急速に激減している様子が報告書に詳しく取り上げられています。

【海洋における危機】

海でも同じような事態が進んでいます。2014年に調査した時点で、人類の影響を受けていないと言える海は全体の3%しかありませんでした。魚はかつてないほど乱獲され、2015年には水産資源の33%が、持続可能なまでに捕獲されていたとのことです。

海洋汚染、特に海洋のプラスチック汚染は1980年以降10倍に増大しており、少なくとも267種の生物が影響を受けています。その中に



絶滅危惧種アカウミガメ。NPO法人サンクチュアリエヌピーオーが長年保護活動が続けている

はウミガメの86%、海鳥の44%、海洋ほ乳類の43%が含まれています。**「100万種の生物が絶滅の危機に」**

これらの様々な現象を総合してIPBESは、『地球上に生息する約800万種の動植物のうち約100万種が絶滅の危機に瀕しており、今後対策が取られなければ、数十年のうちに絶滅しかねない。』と警告しています。この絶滅のペースは過去1,000万年の平均と比べて加速しており、少なくとも数十倍から数百倍に早まっていると推定しています。

○多くの生物を絶滅の危機に晒している要因

多くの生物を絶滅の危機に晒している要因は、影響の大きいものから順に、(1)陸と海の利用の変化(農業や漁業、鉱業など産業の発達による生息地の縮小)、(2)狩猟(乱獲)、(3)地球温暖化、(4)公害(汚染)、

(5)外来種の侵入の5つであり、複合的に事態を悪化させているとのことです。

なお、地球温暖化に関しては今後順位が(1)、(2)を上回る可能性があり、もし地球の気温が2度上昇すれば生物の種の5%が、また4.3度上昇すれば生物の種の16%が絶滅する危険があると指摘されています。

○未来はどうなる

報告書によると、人間が生存するために必要な生物多様性は、人類史上のどの時期よりも急速に低下しているとのことです。

我々人類に必要な、清浄な空気、飲用可能な水、二酸化炭素を吸収する森林、花粉を媒介する昆虫、タンパク質を豊富に含む魚、嵐を食い止めるマングローブの林などの自然の恵みの縮小のスピードが加速する。とで、気候変動に劣らない脅威になると、報告書は指摘しています。

IPBESの評価は132の政府で承認されていますが、現時点で具体的な政策変更は見られません。報告書の執筆者たちは、「変革を起こすような変化だけが、この傾向を逆転させられる」と述べています。

○緑の地球防衛基金の取組の重要性

この報告書を見ると、緑の地球防衛基金の植林活動や、当基金が資金助成している多くの環境団体の活動の先見性、重要性を改めて考えずにはおられません。当基金や資金助成

している環境団体の活動規模は、1つ1つは小さなものかもしれませんが、こうした活動の積み重ねが何よりも重要であることを、この報告書は示唆しているとも思われます。

地球にやさしいカード助成団体の2019年度活動

株式会社セディナの「地球にやさしいカード」寄付金による2019年度助成団体の活動を紹介します。

この制度は、「地球にやさしいカード」会員によるカードショッピング額の0.5%に相当する金額が、(株)セディナから緑の地球防衛基金に寄付され、当基金を通じて国内外で環境保全活動を行っているNPOなどの各助成団体に配分されるものです。ちなみに2018年度の助成金は1,331万円となりました。

(地球温暖化を抑えるカード)

認定NPO法人 FoE Japan

2020年にパリ協定が開始しますが、現状の日本の気候変動対策では不十分です。FoE Japanは、政府の気候変動長期戦略に対する政策提言を行うとともに、2030年の政府目標の引き上げや対策強化を訴えていきます。本年開催されるCOP25などの主要な国際会議に参加し、情報発信や提言活動を行います。気候正義をテーマとした展示イベントやセミナーなどを通じ、気

生物多様性の喪失の問題は、今年初めてG7の議題ともなっています。この報告書が契機となって、地球環境保全の在り方が見直されることが強く望まれます。

候変動の現状や政策の問題点に加え、私たちの生活に身近なアクションの提案も行っていきます。

(オゾン層を守るカード)

NPO法人 ストップ・フロン 全国連絡会

地球上の生命を有害な紫外線から守っているオゾン層。オゾン層破壊物質であるフロンの漏えいが最も大きい、食品流通部門やスーパーマーケット、コンビニエンスストアなどで使われている冷凍冷蔵機器の冷媒フロンを、自然冷媒へ転換をすすめるため、今回も子どもたちにも分かりやすいアニメーション動画を作成しました。SNSなどで広く発信し、地球温暖化をもたらず代替フロンも使わず、環境に優しい脱フロンの世界を目指します。

(熱帯林を守り育てるカード)

NPO法人 熱帯森林保護団体

地球の酸素供給源であるアマゾンの森が、牧場造成や大豆畑・鉱物採掘等の開発で急速に消失し、その影響で、乾期における乾燥による自

然発火等が深刻な問題になっていま

す。この現状を回避するため現地住民が組織する消防団事業を開始し、大火になる前に消火し、同時に防火の啓発活動も実施しています。

4年目を迎えたこの事業は消防署も建設し、道具も充実。その成果が評価され、ブラジル国内においてその実績を報告する機会も増えました。

(尾瀬の自然を守るカード)

NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク

当会の基本的活動である尾瀬国立公園の入口における入山指導を充実し、ハイカーへの情報発信や啓発活動を実施します。

自然保護活動の後継者育成のため、一般から受講生を募集して尾瀬アカデミー(インタープリター養成講座)を開講します。さらに地球温暖化影響調査として、移入植物の調査・温暖化調査等を継続実施します。また、登山者のし尿処理が問題となっている至仏山の携帯トイレシステム導入の促進や携帯トイレ持参試用の啓発活動に取り組みます。

(立山連峰の自然を守るカード)

NPO法人立山自然保護ネットワーク

2019年度も引き続き「アースデイとやま」などで自然保護に関する啓発活動を行います。県内各地で

四季を通して自然観察会を実施し、12年目となる呉羽丘陵でのモニタリングサイト1000里地調査も継続します。

外来植物除去作業については、山地帯・高山帯で種子の散布源となっている地点でオオバコ、ゴマナ、スキなどを重点的に除去します。また、会員の高齢化が進んでいるので、大学生との協働の事業を増やして活動の活性化を進める予定です。

(白保のサンゴを守るカード)

特定非営利活動法人 夏花

夏花(なつばな)は今年度も引き続き、サンゴ礁保全活動として畑から流れ出る赤土等を食い止めるグリーンベルト植栽活動、白保海域の赤土堆積量調査、白保の子どもたちへの環境学習を実施します。

特に今年度は、次世代の担い手の育成と共にサンゴ礁保全活動の現状を広く理解してもらうために、地域の小中学校の子どもたちへの環境学習や、より深く学ぶための組織である「子どもクラブへ」の様々な活動を充実させます。

(ヒマラヤの自然を守るカード)

認定NPO法人ヒマラヤ保全協会

本協会は、気候変動や温暖化による深刻な影響を受けているヒマラヤ山岳地域の環境保全活動を行っています。2019年は、ネパール北西

部ダウラギリ地方に位置するバランジャヤ村、ジーン村、レスパル村を中心に、約4万本の育苗・植林により、地域の生活林再生を推進します。またキウイフルーツの栽培試験区(現在0.18ヘクタール)を拡大し、換金作物の栽培による緑化と地域産品育成の両立を目指したアグロフォレストリー事業を展開します。

(ウミガメを守るカード)

NPO法人サンクチュアリーエヌピーオー

遠州灘海岸におけるアカウミガメの産卵地を守り、人による生態系への悪影響を最小限に抑えるため、以下の取組を行います。

保護調査活動・繁殖調査。麻袋を利用した砂浜回復事業。子ガメの海帰行動を阻害しないために、人工紫外線の最小化の推進。誤食防止のために、マイクログラスチックのゴミゼロを推進。また、市民や行政の理解を深めるために活動を一般公開し、保護調査活動を通じて啓発活動を進めるとともに、次世代の担い手の育成にも力を注ぎます。

(トンボの保護区を守るカード)

NPO法人桶ヶ谷沼を考える会

日本一のトンボ生息地「桶ヶ谷沼」の環境を守る、特に絶滅危惧種ベッコウトンボの種の保存と保護に力を注いでいます。単年だけで守れるもので無く、長い年月を掛けて活動す

ることが重要です。特定外来種の駆除、周辺植生の管理など水質改善・トンボ生息環境の保護・保全を目指し、30余年活動してきました。これが生息確認された70種のトンボ全体の生息保護・保全に役立ちます。次世代へ引き渡すため、開講して3年目を迎えた「おかげがや自然塾」を充実させます。

(ゾウを守るカード)

認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金

アフリカゾウが毎年2万頭以上、象牙目的で殺されています。

2019年度には、日本の象牙市場を維持する政策が引き起こしている国内取引管理の問題点と違法な象牙取引について調査報告書を作成し、公表します。また、今年開催されるワシントン条約締約国会議に出席し、日本の現状を報告し、日本の国内象牙市場閉鎖を促すよう、各国に働きかけます。さらに、国際NGOを日本に招き、日本政府関係者に、世界の国内象牙市場閉鎖の動きを紹介しつつ、市場閉鎖への政策転換を要請していきます。

(トンボの保護区を守るカード)

上総自然学校

上総自然学校は、房総半島の中央部に位置する千葉県袖ヶ浦市で里山の保全・育成・改良に取り組んでいます。

今年度は、袖ヶ浦郷土博物館と生き物観察会を共催します。フィールドは、生き物たくさんの耕作放棄された田んぼを復活させた谷津田と、ため池を兼ねた池と水路です。猛禽類の狩場を確保し、遊歩道を延伸し、もともと自然を体験してもらいます。専門家による毎月の調査と水路・池の整備、有機稲作、体験イベントを行います。

(地球温暖化を抑えるカード)
虹別コロカマイの会

北海道各地で生息している国指定天然記念物のシマフクロウは、開発等により現在約165羽程度と云われています。

当会はシマフクロウが生存しやすい環境をつくるため、1994年から「シマフクロウの森づくり百年事業植樹」を実施しています。今年も5月に26回目となる植樹祭を開催し、3,000本の広葉樹を植樹しました。また「摩周水環境フォーラム」の開催や、バイカモ保全活動等にも取り組んでいます。

(地球温暖化を抑えるカード)
真庭遺産研究会

岡山県真庭市は、32,823haに及ぶ面積で「オオサンショウウオ生息地」の天然記念物指定を受けた全国屈指のオオサンショウウオの生息地です。

生息調査や観察会を行っています。上流域での繁殖環境の悪化に加えて、大雨で下流に流された個体が堰堤などに妨げられ、繁殖地に戻ることが困難になっており、生息個体数の減少が深刻化していることから、清流の環境が連続する「水と緑の回廊」再生に向けた里山水辺の環境保全活動に取り組みます。

チャリティーコンサート
での募金活動

ゴスペル東京の第20回チャリティーコンサートが6月15日(土)に東京・中野区の「なかのZEROホール」で開催されました。緑の地球防衛基金は、他の8団体とともに招かれてチャリティー活動に参加し、募金や物品販売を行いました。

たくさんの使用済み切手など
ありがとうございました

使用済み切手等売上表 (3月中旬～6月中旬)	
未使用テレホンカード	0円
未使用/使用済み切手	372,506円
未使用/書き損じハガキ	62,452円
外国コイン&紙幣	15,400円
合計	450,358円

使用済み切手等協力者
(3月中旬～6月中旬敬称略)

市川浩一、一柳清美、氏家恭子、小倉久枝、貝原美輝子、加藤聖治、蔭山育子、キャンベル有可、國本ゆかり、佐原みき子、下田正枝、渋川文隆、関屋千尋、林央、福田順子、山本幸枝、匿名

同人・団体協力者
(3月中旬～6月中旬敬称略)

愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター、穴吹エンタープライズ(株)、安藤産業(株)、生駒市社会福祉協議会、(株)奥村組、カクケイ(株)、鹿島建設(株)、神奈川少年友の会、(株)川崎製作所、北広島市社会福祉協議会、近畿容器(株)、(株)サカモト、(株)さくら工業所、シーキューブ(株)、静岡市立清水岡小学校、清水建設(株)、清水建設(株)名古屋支店、横浜支店、下妻社会福祉協議会、JXRリサーチ(株)、(株)世界貿易センタービルディング、袖ヶ浦市社会福祉協議会ボランティアセンター、損害保険ジャパン日本興亜(株)、SONPOちきゅう倶楽部、宝塚FAN、S文通サークルRenka、第一設備工業(株)、「小さな親切」運動山口県本部、中外製薬(株)福岡支店大分オフィス、東京少年友の会、東京少年友の会立川会、(株)東京流通センター、東洋熱工業(株)、豊島岡女子学園、ニッパツ・メック(株)、日本郵便(株)市川大洲郵便局、横浜新子安郵便局、野口アルミ箔加工紙(株)、ハート(株)、(株)ハシモト、(株)ビー・エム。

エルBML総研、(有)ファウンテン、(株)藤井合金製作所、富士通(株)、富士通ISサービス(株)、富士通ITマネジメントパートナー(株)、(株)富士通HRプロフェシヨナルズ、富士通(株)川崎工場、富士通(株)静岡支社、富士通テクノリサーチ(株)、富士通(株)新潟支社、(株)富士通パーソナルズ、(株)富士通北陸システムズ、富士通(株)幕張システムラボラトリ、ブリヂストン労働組合、(株)ミライト・テクノロジーズ緑の会、ヤンマー(株)、和興フィルタテクノロジ(株)

新入個人会員

(3月中旬～6月中旬敬称略)

柳生敏宏

寄付協力者

(3月中旬～6月中旬敬称略)

MS&ADシステムズ(株)、小松原誠、(株)正宝住販、(株)セディナ、三井貞夫、森口修、守屋森次、渡邊公伸

事務局からのお願い

全国の皆さま、いつも使用済み切手などをお送り下さりありがとうございます。当基金では、皆さまから送っていただいた「未使用/使用済み切手」「未使用/書き損じハガキ」「外国コイン&紙幣」の売上金を植林活動などに役立てていますが、最近減少気味です。皆さまからのご協力をお待ちしています。